

事後評価書（期中の評価）

都道府県名	千葉県	関係市町村	富津市	期中評価実施の理由	③
事業名	水産物供給基盤整備事業（水産流通基盤整備事業）				
地区名	富津地区	事業主体	千葉県		

I 基本事項

1. 地区概要					
漁港名（種別）	富津漁港（第2種）		漁場名	—	
陸揚金額	2,348	百万円	陸揚量	8,010.3	トン
登録漁船隻数	785	隻	利用漁船隻数	785	隻
主な漁業種類	のり類養殖、潜水器、刺し網		主な魚種	のり類、その他の貝類、すずき	
漁業経営体数	45	経営体	組合員数	291	人
地区の特徴	<p>富津漁港は房総半島の東京湾中央部に位置する富津岬を中心に、北側の富津地区と南側の下洲地区との2地区から構成されており、東京湾アクアラインに加えて、かずさアカデミアパーク等の波及効果が期待される大型プロジェクトが多い地区である。</p> <p>当地区はのり養殖および採貝等を中心とする漁業の盛んな地区で、東京湾漁業の重要な生産拠点となっている。</p> <p>また、漁港周辺の海岸線では春先から夏にかけて遠浅な砂浜を利用して、観光産業とタイアップした潮干狩りや、すだて漁が盛んな地区である。</p> <p>富津漁港の周辺海域は、遠浅な海域であり、のり養殖の盛んな地区となっている。のり養殖は漁港全体の陸揚量8,010.3t（H27）のうち7,522.4tと約9割を占めている。</p> <p>本漁港は、のり養殖を中心に東京湾側において県内の漁港で最大の水揚げを有する生産拠点として地域の基幹産業として重要な役割をもっている。</p>				
2. 事業概要					
事業目的	<p>富津漁港では、富津地区及び下洲地区ともに沿岸漂砂の影響による航路・泊地の埋塞が生じており、漁船の出入港時の安全が確保されていない。また、下洲地区においては、船揚場および用地等の漁港施設が不足しており、漁船・漁具等を各漁家へ陸上運搬し保管するという非効率的な漁業活動を余儀なくされている。</p> <p>このため、安全で快適な漁業地域の形成を目的とし、航路・泊地の浚渫により漁船の出入港時の安全を確保するとともに、船揚場および用地等の漁港施設を整備することにより、就労環境の改善と漁業活動の効率の向上を図る。</p>				
主要工事計画	<p>（富津地区）—3.0m航路（新設）31,000m²、—2.5m泊地（補修）20,000m²、—1.5m物揚場（補修）140m、道路（新設）660m</p> <p>（下洲地区）防波堤（新設）273m、沖防波堤（新設）60m、護岸（新設）196m、突堤（新設）20m、—1.50m泊地（新設）9,000m²、—1.50m泊地（補修）24,000m²、船揚場（新設）170m、—1.50m物揚場（新設）86m、道路（新設）645m、用地（新設）23,300m²</p>				
事業費	3,756	百万円	事業期間	平成14年度～平成34年度	
既投資事業費	2,643	百万円	事業進捗率(%)	70.4%	

II 点検項目

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化			
	直前の評価 (H27)	今回の評価 (H29)	※別紙「費用対効果分析集計表」のと おり
総費用（千円）	4,229,870	4,690,586	
総便益（千円）	4,983,728	4,839,350	
費用便益比(B/C)	1.18	1.03	
総費用の変更の理由			
評価年度の違いにより、デフレータの増加による。			
便益算定項目について変更がある場合はその項目と変更の理由			
1. 10船揚場新設による揚船順番待ち時間の削減：計上漏れ 1. 11物揚場の整備に伴う船揚場引揚げ時間の削減：計上漏れ			
その他費用対効果分析に係る要因の変化			
漁船耐用年数延長効果が下洲地区のみの算定であったが、富津地区も含めた算定とした。 労働環境改善効果は対象となる作業時間の算定とした。			
2. 漁業情勢、社会経済情勢の変化			
(1) 漁業情勢及び漁港施設、漁場施設等の利用状況と将来見通し			
計画策定後の漁業集落に関わる社会経済状況、自然状況の当初想定との相違と将来見通し			
<p>属地陸揚金額は、平成22年では3,172百万円であったが、平成27年では2,348百万円（74%）に減少しており、属地陸揚量は、平成22年では9,928.0トンであったが、平成27年では8,010.3トンで（89%）に減少しており、金額の減少割合が大きい（魚価単価の低下）。</p> <p>登録漁船隻数は、平成22年の975隻から、平成27年では785隻（81%）に減少し、利用漁船も同様である。</p>			
漁業形態、流通形態について当初想定との相違と将来見通し			
漁業形態は、のり養殖が約9割で、その他採貝、刺し網等を行っており、整備前と変わっていない。			
漁港施設等の利用状況について当初想定との相違と将来見通し			
海上作業従事者数は、平成22年の433人から、平成27年では376人（87%）に減少している。経営体は、平成22年の302経営体から平成27年では256経営体（85%）に、組合員数は平成22年の398人から平成27年の256人（64%）と減少しており、准組合員の減少が大きい。			
(2) その他社会情勢の変化			
富津市の人口は、平成22年の48,109人から平成27年では45,879人（95%）の減少で、漁港地区人口は平成22年の6,247人から平成27年では5,725人（92%）の減少である。			

3. 事業の進捗状況	
	平成29年度までに外郭施設、係留施設、水域施設、道路の整備を実施しており、進捗率は80%の進捗である。今後は、船揚場、物揚場、用地及び防波堤、沖防波堤の残工事の整備を計画的に実施する予定である。
4. 関連事業の進捗状況	
	特になし
5. 地元（受益者、地方公共団体等）の意向	
	地元漁協が事業主体となつてのりの共同加工施設の整備を実施するものであり、物揚場の整備によりのりの水揚げ作業を人力から機械式（ポンプにより船から共同加工施設・運搬車両に圧送する）に移行していく計画があり、残事業である物揚場、用地、防波堤の整備を早期に完成するよう要望が強い。
6. 事業コスト縮減等の可能性	
	①船揚場施工にあたり仮締切りを計画していたが、一部を物揚場に変更したことにより、この仮説計画を見直すことにより、用地整備を含めて事業コスト縮減を考慮している。
7. 代替案の実現可能性	
	代替案は考えられない

Ⅲ 総合評価

本事業は、生産拠点漁港として重要な役割を担っている富津漁港において、生産量の約9割を占めるのり養殖において、生産・水揚げ・加工・出荷の作業性の向上、操業の安全確保および作業の労働負荷の軽減を図るため、防波堤・護岸・物揚場・船揚場・用地及び道路を行うものであり、進捗率も70%と完成に近づいている。

残る事業についても、地元漁協が事業主体となりのりの共同加工施設の整備を推進する上で必要不可欠な物揚場、用地、防波堤の整備を行うものであり、地元の要望も強いものである。

また、貨幣化が可能な効果について、費用対効果分析を行ったところ、費用便益比は1.0を超えており、経済効果についても確認されている。

以上の結果から、本事業の必要性及び経済性は高いと認められ、事業の継続は妥当であると判断された。

費用対効果分析集計表

1 基本情報

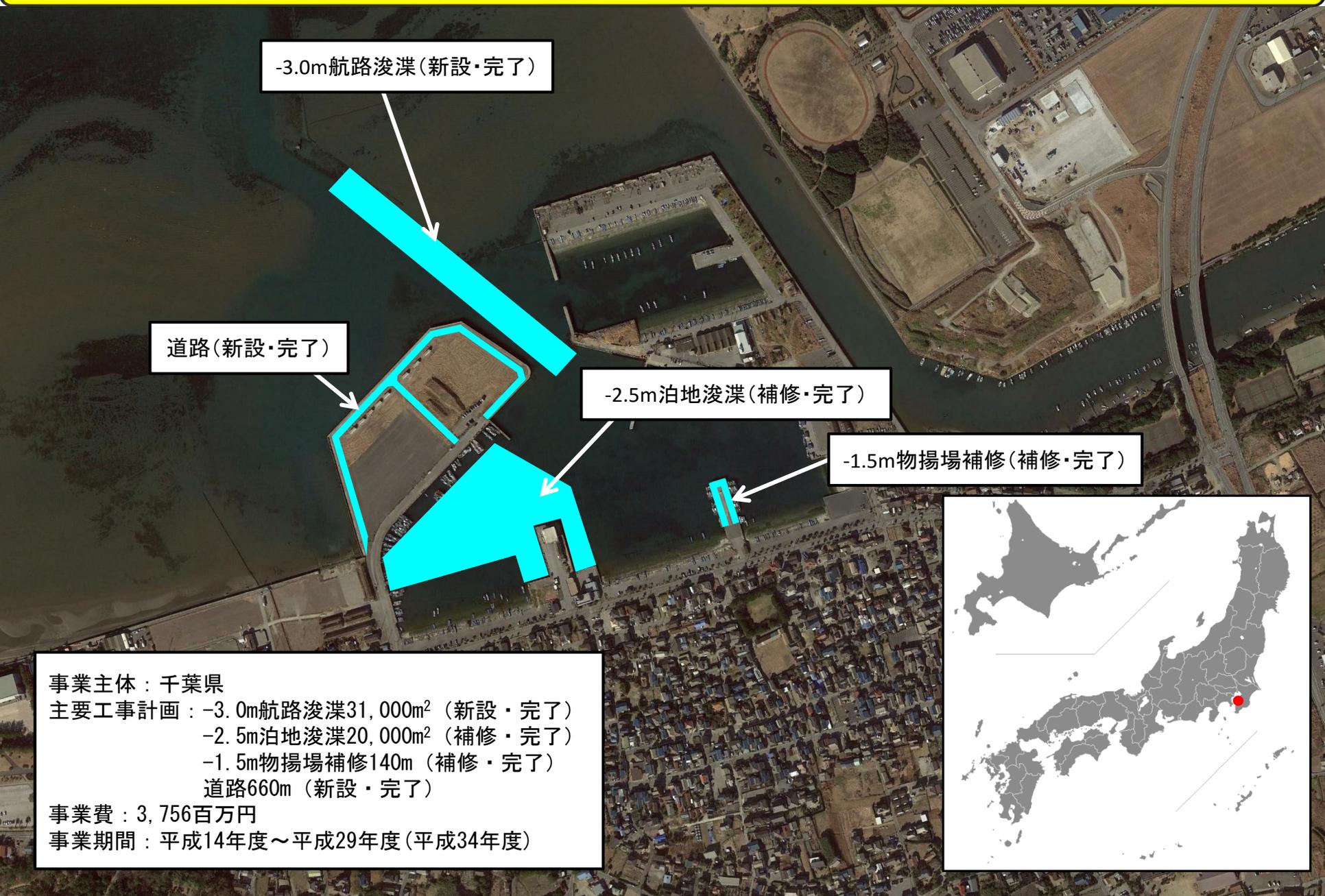
都道府県名	千葉県	地区名	富津漁港
事業名	水産流通基盤整備事業	施設の耐用年数	漁港施設：50年

2 評価項目

	評価項目		便益額（現在価値化）	
	便益の評価項目及び便益額	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	4,781,031
②漁獲機会の増大効果				千円
③漁獲可能資源の維持・培養効果				千円
④漁獲物付加価値化の効果				千円
漁業就労環境の向上		⑤漁業就労環境の労働環境改善効果	58,319	千円
生活環境の向上		⑥生活環境の改善効果		千円
地域産業の活性化		⑦漁業外産業への効果		千円
非常時・緊急時の対処		⑧生命・財産保全・防御効果		千円
		⑨避難・救助・災害対策効果		千円
自然保全・文化の継承		⑩自然環境保全・修復効果		千円
		⑪景観改善効果		千円
		⑫地域文化保全・継承効果		千円
その他		⑬漁港利用者の利便性向上効果		千円
		⑭その他		千円
計（総便益額）		B	4,839,350	千円
総費用額（現在価値化）		C	4,690,586	千円
費用便益比		B / C	1.03	

3 事業効果のうち貨幣化が困難な効果

- ・ 漁業従事者の高齢化が進む中、就労環境の向上を図り、高齢者でも安心して就労ができる環境が整う。
- ・ これにより、後継者や新規参入者の確保に寄与する。



-3.0m航路浚渫(新設・完了)

道路(新設・完了)

-2.5m泊地浚渫(補修・完了)

-1.5m物揚場補修(補修・完了)

事業主体：千葉県

主要工事計画：-3.0m航路浚渫31,000m²（新設・完了）

-2.5m泊地浚渫20,000m²（補修・完了）

-1.5m物揚場補修140m（補修・完了）

道路660m（新設・完了）

事業費：3,756百万円

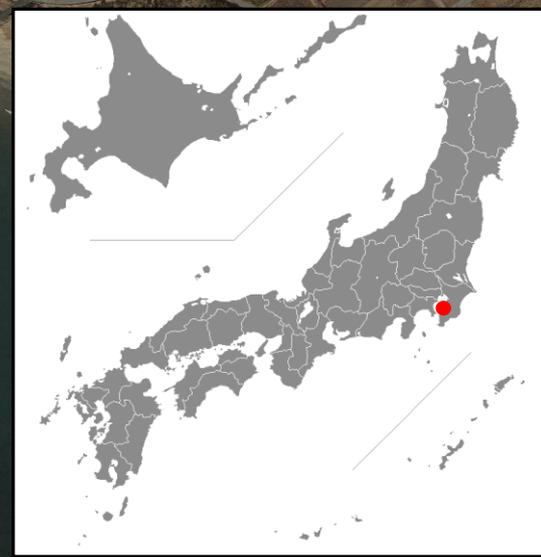
事業期間：平成14年度～平成29年度（平成34年度）





事業主体：千葉県
主要工事計画：防波堤273m（新設・施工中）
沖防波堤60m（新設・未施工）
護岸196m（新設・完了）
突堤20m（新設・完了）
-1.5m泊地浚渫33,000m²（補修・完了）
-1.5m泊地浚渫9,000m²（新設・完了）
船揚場170m（新設・未施工）
-1.5m物揚場86m（新設・未施工）
道路645m（新設・完了）
用地23,300m²（新設・施工中）

事業費：3,756百万円
事業期間：平成14年度～平成29年度（平成34年度）



富津地区 水産流通基盤整備事業の効用に関する説明資料

1. 事業概要

- (1) 事業目的：富津漁港では、富津地区および下洲地区とも沿岸漂砂の影響により、航路・泊地において埋塞が生じており漁船の出入港時の安全が確保されていない。また、下洲地区においては、船揚場および用地等の漁港施設が不足しており、漁船・漁具等を各漁家へ陸上運搬し保管するという非効率的な漁業活動を余儀なくされている。
このため、安全で快適な漁業地域の形成を目的とし、航路・泊地の浚渫により漁船の出入港時の安全を確保するとともに、船揚場および用地等の漁港施設を整備することにより、就労環境の改善と漁業活動の効率の向上を図る。
- (2) 主要工事計画：(富津地区) -3.0m航路(新設)31,000m²、-2.5m泊地(補修)20,000m²、-1.5m物揚場(補修)140m、道路(新設)660m
(下洲地区)防波堤(新設)273m、沖防波堤(新設)60m、護岸(新設)196m、突堤(新設)20m、-1.5m泊地(新設)9,000m²、-1.5m泊地(補修)24,000m²、船揚場(新設)170m、-1.5m物揚場(新設)86m、道路(新設)645m、用地(新設)23,300m²
- (3) 事業費：3,756百万円
- (4) 工期：平成14年度～平成34年度

2. 総費用便益比の算定

- (1) 総費用総便益比の総括
「水産基盤整備事業費用対効果分析ガイドライン」(平成29年4月改訂 水産庁)及び同「参考資料」(平成29年5月改訂 水産庁)等に基づき算定。

区分	算定式	数値
総費用(現在価値化)	①	4,690,586 (千円)
総便益額(現在価値化)	②	4,839,350 (千円)
総費用総便益比	②÷①	1.03

(2) 総費用の総括

施設名	整備規模	事業費(千円)
防波堤(下洲)	L= 273m	1,497,435
沖防波堤(下洲)	L= 60m	106,275
護岸(下洲)	L= 196m	369,219
突堤(下洲)	L= 20m	27,065
船揚場(下洲)	L= 170m	329,229
-1.5m物揚場(補修)(富津)	L= 140m	29,153
物揚場(下洲)	L= 86m	59,060
-3.0m航路(富津)	A= 31,000m ²	85,841
-1.5m泊地(下洲)	A= 9,000m ²	57,813
-1.5m泊地(補修)(下洲)	A= 24,000m ²	48,912
-2.5m泊地(補修)(富津)	A= 20,000m ²	16,199
用地(下洲)	A= 23,300m ²	1,045,720
道路(富津)	L= 660m	47,648
道路(下洲)	L= 645m	36,516
計		3,756,085
維持管理費等		250,000
総費用(消費税込)		4,006,085
内、消費税額		230,991
総費用(消費税抜き)		3,775,094
現在価値化後の総費用(税抜)		4,690,586

3. 効果額の算定方法

(1) 水産物生産コストの削減効果

①水域施設（-3.0m航路、-2.5m泊地）の整備に伴う漁船修理費用・時間の削減

航路、泊地浚渫による3t以上船のスクリュー等修理、修理中7日間出漁不可の解消

(富津地区)

区分		備考
対象漁船（隻）	①	60 漁協ヒアリング（実施日：H29.9.29、場所：富津漁業協同組合、対象者：総務課長、実施者：南部漁港事務所、調査委託受託者、実施方法等：事前ヒアリング用紙送付後直接面談にて詳細確認、以下、「漁協ヒアリング（H29確認）（富津）」と記載する）
年間修理費用（千円）	②	130 漁協ヒアリング（H29確認）（富津）
年間便益額（千円/年）	③	7,800 ①×②
乗船員数（人）	④	156 漁協ヒアリング（H29確認）（富津）
休漁日数（日）	⑤	7 漁協ヒアリング（H29確認）（富津）
1日当り就労時間（時間）	⑥	7.00 漁協ヒアリング（H29確認）（富津）
労働単価（円/時間）	⑦	1,231 漁業経営調査報告（H23～27水産庁）3t未満漁船
年間便益額（千円/年）	⑧	9,410 ④×⑤×⑥×⑦
合計年間便益額（千円/年）	⑨	17,210 ③+⑧

②水域施設（-1.5m泊地）の整備に伴う入出港時の潮待ち時間の削減

泊地浚渫による潮待ち時間の削減

(下洲地区)

区分		備考
対象漁船（隻）	①	63 漁協ヒアリング（下洲漁協 実施日：H29.9.29、場所：富津市下洲漁業協同組合、対象者：参事、新富津漁協 実施日：H29.9.29、場所：新富津漁業協同組合、対象者：参事、実施者：南部漁港事務所、調査委託受託者、実施方法等：事前ヒアリング用紙送付後直接面談にて詳細確認、以下、「漁協ヒアリング（H29確認）（下洲）」と記載する）
乗船員数（人）	②	126 漁協ヒアリング（H29確認）（下洲）
大潮回数（回）	③	10 漁協ヒアリング（H29確認）（下洲）
整備前潮待ち時間（時間）	④	4.00 漁協ヒアリング（H29確認）（下洲）
整備後潮待ち時間（時間）	⑤	0.00 漁協ヒアリング（H29確認）（下洲）
労働単価（円/時間）	⑥	1,231 漁業経営調査報告（H23～27水産庁）3t未満漁船
年間便益額（千円/年）		6,204 ②×③×（④-⑤）×⑥

③-1.5m物揚場（補修）整備に伴う作業時間の短縮

物揚場（補修）整備による作業時間の短縮

(富津地区)

区分		備考
出漁日数（日）潜水器	①	90 漁協ヒアリング（H29確認）（富津）
対象漁船（隻）	②	14 漁協ヒアリング（H29確認）（富津）
乗船員数（人/隻）	③	4 漁協ヒアリング（H29確認）（富津）
整備前準備・陸揚げ時間（時間）	④	0.50 漁協ヒアリング（H29確認）（富津）
整備後準備・陸揚げ時間（時間）	⑤	0.25 漁協ヒアリング（H29確認）（富津）
労働単価（円/時間）	⑥	1,754 漁業経営調査報告（H27、水産庁）5階層平均
年間便益額（千円/年）		2,210 ①×②×③×（④-⑤）×⑥

④船揚場整備に伴う漁船入替え作業の削減

船揚場防整備による漁船の入れ替え作業の削減

(下洲地区)

区分		備考
作業日数 (日)	①	4 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
作業回数 (回)	②	2 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
対象漁船 (隻)	③	141 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
作業員数 (人/隻)	④	2 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
整備前作業時間 (時間)	⑤	0.50 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
整備後作業時間 (時間)	⑥	0.25 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
労働単価 (円/時間)	⑦	1,231 漁業経営調査報告 (H23～27水産庁) 3t未満漁船
年間便益額 (千円/年)		694 $① \times ② \times ③ \times ④ \times (⑤ - ⑥) \times ⑦$

⑤船揚場整備に伴う移動時間・経費の削減

船揚場整備による休漁期に自宅等へ漁船を移動する作業の削減

(下洲地区)

区分		備考
対象漁船 (隻)	①	84 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲) 165-81=84隻
移動回数 (回/年)	②	2 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
陸上移動時間 (時間)	③	3.00 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
作業人数 (人)	④	3 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
労働単価 (円/時間)	⑤	1,231 漁業経営調査報告 (H23～27水産庁) 3t未満漁船
年間便益額 (千円/年)	⑥	1,861 $① \times ② \times ③ \times ④ \times ⑤$
年間修理費用 (千円)	⑦	70 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
年間便益額 (千円/年)	⑧	5,880 $① \times ⑦$
合計年間便益額 (千円/年)	⑨	7,741 $⑥ + ⑧$

⑥-1用地整備による漁具等運搬時間の削減

用地整備によるのり作業準備のため自宅から漁具を運搬する作業の削減

(下洲地区)

区分		備考
準備日数 (日)	①	30 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
運搬回数 (回) 往復	②	2 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
対象経営体数 (体)	③	24 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲) 166-142=24体
作業員数 (人/隻)	④	2 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
運搬時間 (時間)	⑤	0.50 漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
労働単価 (円/時間)	⑥	1,231 漁業経営調査報告 (H23～27水産庁) 3t未満漁船
年間便益額 (千円/年)		1,772 $① \times ② \times ③ \times ④ \times ⑤ \times ⑥$

⑥-2用地整備による漁具積み込み・水揚げ作業時間の削減

用地整備による積み込み降し作業準備の時間の短縮

(下洲地区)

区分		備考
作業日数(日)	①	160 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(下洲)
漁船隻数(隻)	②	166 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(下洲)
作業員数(人/隻)	③	2 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(下洲)
整備前作業時間(時間)	④	0.50 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(下洲)
整備後作業時間(時間)	⑤	0.25 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(下洲)
労働単価(円/時間)	⑥	1,231 漁業経営調査報告(H23~27水産庁)3t未満漁船
年間便益額(千円/年)		16,348 $① \times ② \times ③ \times (④ - ⑤) \times ⑥$

⑦-1道路の整備に伴う作業性向上(時間短縮)

道路整備による準備作業時の移動・作業時間の短縮効果

(富津地区)

区分		備考
○底びき網		
出漁日数(日)	①	130 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
漁船隻数(隻)	②	18 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
作業員数(人/隻)	③	32 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
整備前作業時間(時間)	④	0.50 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
整備後作業時間(時間)	⑤	0.25 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
労働単価(円/時間)	⑥	1,231 漁業経営調査報告(H23~27水産庁)3t未満漁船
年間便益額(千円/年)	⑦	1,280 $① \times ③ \times (④ - ⑤) \times ⑥$
○まき網		
出漁日数(日)	⑧	150 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
漁船隻数(隻)	⑨	3 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
作業員数(人/隻)	⑩	12 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
整備前作業時間(時間)	⑪	0.50 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
整備後作業時間(時間)	⑫	0.25 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
労働単価(円/時間)	⑬	1,231 漁業経営調査報告(H23~27水産庁)3t未満漁船
年間便益額(千円/年)	⑭	554 $⑧ \times ⑩ \times (⑪ - ⑫) \times ⑬$
小計年間便益額(千円/年)	⑮	1,834 $⑦ + ⑭$
○底びき網・走行時間費用		
出漁日数(日)	⑯	130 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
トラック台数(台)	⑰	18 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
運搬短縮時間(時間)	⑱	0.25 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
時間価値単原単位(円/分・台)	⑲	47.91 水産基盤整備事業の費用対効果分析のガイドライン参考資料(H29.5、水産庁)
年間便益額(千円/年)	⑳	1,682 $⑯ \times ⑰ \times ⑱ \times ⑲$
○まき網		
出漁日数(日)	21	150 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
トラック台数(台)	22	3 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
運搬短縮時間(時間)	23	0.25 漁協ヒアリング [※] (H29確認)(富津)
時間価値単原単位(円/分・台)	24	47.91 水産基盤整備事業の費用対効果分析のガイドライン参考資料(H29.5、水産庁)
年間便益額(千円/年)	25	323 $21 \times 22 \times 23 \times 24$
小計年間便益額(千円/年)	26	2,005 $⑳ + 25$
合計年間便益額(千円/年)	27	3,839 $⑮ + 26$

⑦-2道路の整備に伴う作業性向上（時間短縮）

道路整備による準備作業時の移動・作業時間の短縮効果

（下洲地区）

区分		備考
○のり網		
出漁日数（日）	①	160 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
漁船隻数（隻）	②	70 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
作業員数（人/隻）	③	140 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
整備前作業時間（時間）	④	0.50 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
整備後作業時間（時間）	⑤	0.25 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
労働単価（円/時間）	⑥	1,231 漁業経営調査報告（H23～27水産庁）3t未満漁船
年間便益額（千円/年）	⑦	$① \times ③ \times (④ - ⑤) \times ⑥$
○その他		
出漁日数（日）	⑧	90 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
漁船隻数（隻）	⑨	6 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
作業員数（人/隻）	⑩	12 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
整備前作業時間（時間）	⑪	0.50 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
整備後作業時間（時間）	⑫	0.25 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
労働単価（円/時間）	⑬	1,231 漁業経営調査報告（H23～27水産庁）3t未満漁船
年間便益額（千円/年）	⑭	$⑧ \times ⑩ \times (⑪ - ⑫) \times ⑬$
合計年間便益額（千円/年）	⑮	$⑦ + ⑭$

⑧船揚場整備他に伴う漁船耐用年数の延長効果

物揚場改良による漁船耐用年数の延長

（富津地区・下洲地区）

区分		備考
対象漁船総トン数	①	1,203.3 H27年港勢調査
漁港施設整備前の漁船の耐用年数（年）	②	7 減価償却資産の耐用年数に関する省令（財務省）
漁港施設整備後の漁船の耐用年数（年）	③	10.17 水産基盤整備事業の費用対効果分析のガイドライン参考資料（H29.5、水産庁）
漁船建造費（千円/t）	④	2,992 水産基盤整備事業の費用対効果分析のガイドライン参考資料（H29.5、水産庁）
年間便益額（千円/年）		$(1 / ② - 1 / ③) \times ④ \times ①$

⑨物揚場の整備に伴う作業性向上（時間短縮）

物揚場整備に伴うのり積み換え削減による作業時間の短縮

（下洲地区）

区分		備考
作業日数（日）	①	120 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
漁船隻数（隻）	②	66 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
作業員数（人）	③	198 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
整備前作業時間（時間）	④	1.00 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
整備後作業時間（時間）	⑤	0.50 漁協ヒアリング ⁺ （H29確認）（下洲）
労働単価（円/時間）	⑥	1,231 漁業経営調査報告（H23～27水産庁）3t未満漁船
年間便益額（千円/年）		$① \times ③ \times (④ - ⑤) \times ⑥$

⑩船揚場の整備に伴う揚船待ち時間の短縮

物揚場整備に伴うのり積み換え削減による作業時間の短縮

(下洲地区)

区分			備考
作業日数 (日)	①	190	漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
漁船隻数 (隻)	②	141	漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
作業員数 (人)	③	2	漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
削減待ち時間 (時間)	④	0.09	漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
労働単価 (円/時間)	⑤	1,231	漁業経営調査報告 (H23～27水産庁) 3t未満漁船
年間便益額 (千円/年)		5,936	①×②×③×④×⑤

⑪物揚場の整備に伴う船揚引揚げ時間の削減

物揚場整備に伴うのり積み換え削減による作業時間の短縮

(下洲地区)

区分			備考
作業日数 (日)	①	190	漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
漁船隻数 (隻)	②	66	漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
作業員数 (人)	③	198	漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
削減待ち時間 (時間)	④	0.17	漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
労働単価 (円/時間)	⑤	1,231	漁業経営調査報告 (H23～27水産庁) 3t未満漁船
年間便益額 (千円/年)		7,873	①×②×③×④×⑤

(2) 漁業就業者の労働環境改善効果

①船揚場整備に伴う漁業就業者の労働環境改善

船揚場、物揚場、用地等整備に伴う漁船、漁具等の積卸し、漁獲物の水揚げ積換え作業の労働付加、作業中の危険性の解消

(下洲地区)

区分			備考
整備前の作業状況の基準値	①	1.154	作業ランクB
整備後の作業状況の基準値	②	1.000	作業ランクC
労働単価 (円/時間)	④	1,231	漁業経営調査報告 (H23～27水産庁) 3t未満漁船
対象作業時間 (時間)	⑤	17,424.00	漁協ヒアリング [※] (H29確認) (下洲)
年間便益額 (千円/年)		3,303	(①-②) × ④ × ⑤

項目	対象作業	対象人数		対象時間		便益算定時間	備考		
		隻数	乗員数	回数	日数				
1.3	漁具等積卸	14 隻×	4 人=	0.25 時間×	1 回×	90 日=	22.50 時間	1,260 時間	富津:足場の悪い物揚場:漁具等の積卸作業
1.4	上下架作業等	141 隻×	2 人=	0.25 時間×	2 回×	4 日=	2.00 時間	564 時間	下洲:船揚場:漁船の入れ替え時の上下架作業
1.6-2	漁具運搬	166 隻×	2 人=	0.25 時間×	2 回×	30 日=	15.00 時間	4,980 時間	下洲:用地:漁具積み運搬作業
1.9	積み替え	66 隻×	3 人=	0.50 時間×	1 回×	120 日=	60.00 時間	11,880 時間	下洲:物揚場:漁獲物の積み換え陸揚り作業
1.11	揚船から係留	66 隻×	3 人=	0.08 時間×	1 回×	190 日=	15.20 時間	3,010 時間	下洲:船揚場に揚船から物揚場に係留
合計			812 人					17,424 時間	